

酸素を十分に与えたら、再入水2回目に入水。

油断は禁物!酸素を一日与えましょう。



慌てて入水すると
苗立ち最悪!!

このような状態に...手遅れ。

窒息したり、気温の低い日に入水すると、病気が発生し死滅。



水門もしっかり止めましょう!

こんな状態は最悪です。次を目安に廃耕か否かを決定しましょう。

- ①90本/m²以下=廃耕し転作
- ②90本/m²以上=継続し追肥対策を励行

遠慮なく、ご相談ください。



3回目の入水量 水深5cm程度(芽が隠れる位)

ここで苗立・ヒエの調査実施

- ①180本以上/m²で、ヒエの葉数が大きくなれば、入水後に水深を確認して、一発処理剤を散布。
- ②180本以下/m²であれば、体系処理が無難な方法です。

湛水直播の苗立率はこの3年間の平均で約50%です。良い人と悪い人の差が大きいようです。

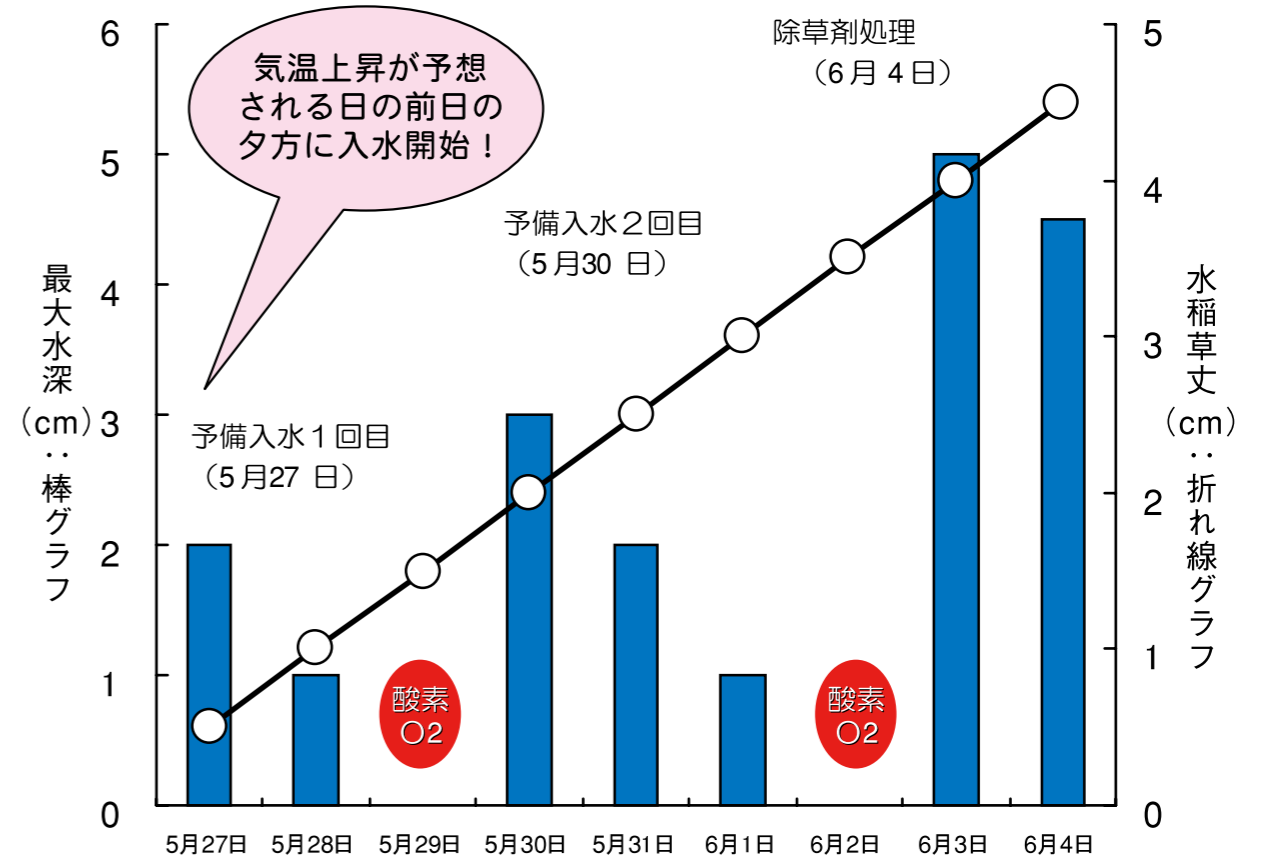


図-9 3回の予備入水処理と初期生育(理想型)

3. 再入水の注意事項 (再確認!!)

- (1) 積算温度の目安を参考にしましょう。
- (2) 「焦らない。我慢する。相談する。」が3原則です。
- (3) ほ場巡回時には必ず、根と芽の伸長を観察しましょう。(ナイフ携帯)
- (4) 苗立ちや生育進度が思わしくない場合は、一発処理の除草剤の使用をあきらめ、体系処理の方法を選ぼう。
- (5) この期間に降雨があった場合は、入水量や回数を調整しましょう。(酸素不足を防ぐ)

$$\text{予測式} = \text{積算} \left(\frac{\text{日最高気温} + \text{日最低気温}}{2} - 6 \right)$$

播種翌日からの積算が「大地の星カルパーなし」の場合、90℃を超えた日が再入水の目安となります。
※ 他の品種はこの基準は異なります。